

令和

7

年度

事業者番号

0615

事業所番号

061500

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代 表 事 業 所 名	朝日アグリア株式会社 神川農場		前年度における事業所数	1
代 表 事 業 所 所 在 地	市 区 町 村	児玉郡神川町		
	字 ・ 地 番	大字新里863-2		
当該事業所を含む事業所の名称 （※Bテナント等の場合のみ記入）				
産 業 分 類 名 （ 中 分 類 ）	71 学術・開発研究機関			
分 類 番 号 （ 中 分 類 ）	71			
事 業 活 動 の 概 要	植物育種研究			

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計 画 期 間		2	年 度	～	6	年 度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量	163	t-CO ₂	基準となる原単位	0.0239 t-CO ₂ /m ²
		令和2年度の原単位を基準として、計画期間の平均削減率を1%とします。				
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計 画 期 間		7	年 度	～	11	年 度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量		t-CO ₂	基準となる原単位	0.0126 t-CO ₂ /m ²
		令和6年度の原単位を基準として、計画期間の平均削減率を6%とします。				
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所 在 地
1	朝日アグリア株式会社 神川農場	児玉郡神川町大字新里863-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
	67	39	36	35	38

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	基準 163	163	91	81	81	86
	前 年 度 比 （ % ）	—	-44.2	-11.0	0.0	6.2
	基準となる排出量に対する 削 減 率 （ % ）	0.0	44.2	50.3	50.3	47.2
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハ イ ド ロ フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	パ ー フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		163	91	81	81	86

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	基準 0.0239	0.0239	0.0133	0.0119	0.0119	0.0126
	前 年 度 比 （ % ）	—	-44.2	-11.0	0.0	6.2
	基準となる原単位に対する削減率 (%)	0.0	44.2	50.3	50.3	47.3
活 動 規 模 の 指 標	単 位					
ハウス面積	m2	6,823.00	6,823.00	6,823.00	6,823.00	6,823.00

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	ハウス暖房を効率的に運用、及び冬季の燃料使用が大きい栽培の規模が前年度より縮小したため、燃料使用量が減少し、CO2排出量が減少
令和4年度 (2022年度)	前年度から継続したハウス暖房の効率的運用により燃料使用量が減少し、CO2排出量が減少。
令和5年度 (2023年度)	作物の適正生育を優先したハウス暖房の運用としたためA重油の使用量が増加、代わりに補助暖房の使用を減らしたため灯油の使用量が減少し、全体ではCO2排出量は横ばいとなった。
令和6年度 (2024年度)	低温によりハウス燃料効率が悪化。CO2排出量が増加した。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施	R2	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	暖房設備の効率的運用を実施	R3	R3	
4	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備の効率的運用を実施	R3	R3	
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機器の効率的運用を実施	R3	R3	
6	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	暖房設備の効率的運用を実施	R7以降	R7以降	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

--

令和

7

年度

事業者番号

0615

事業所番号

061501

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	朝日アグリア株式会社 関東工場			
事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町		
	字・地番	渡瀬222番地		
当該事業所を含む事業所の名称 （※Bテナント等の場合のみ記入）	朝日工業株式会社 埼玉事業所			
産業分類名（中分類）	16 化学工業			
分類番号（中分類）	16			
事業活動の概要	肥料事業、種苗事業、牧草事業			

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ （必須）	基準となる排出量	6,155	t-CO ₂	基準となる原単位	0.1065
		令和2年度の排出量を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。 ※朝日アグリアは2020年度に朝日工業の会社分割により子会社となりました。両社にはエネルギー管理の連動性があることから、朝日アグリアはBテナント事業者として報告を行います。基準となる排出量については、朝日アグリア単体での過去の排出量(2002～2007)の特定が難しいため令和2年度の排出量を基準としました。引き続き、朝日工業（C事業所）の削減目標達成に努めます。				
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ （必須）	基準となる排出量		t-CO ₂	基準となる原単位	0.1595
		令和6年度の原単位(0.1595t-CO ₂ /t)を基準として計画期間の平均削減率を6%以上とします。 ※朝日アグリアは2020年度に朝日工業の会社分割により子会社となりました。両社にはエネルギー管理の連動性があることから、朝日アグリアはBテナント事業者として報告を行います。引き続き朝日工業（C事業所）の削減目標達成に努めます。				
	その他ガス					

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
	3,121	2,976	3,731	4,376	4,132

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	基 準	6,155	5,869	7,359	8,632	8,151
	前 年 度 比 （ % ）	—	-4.6	25.4	17.3	-5.6
	基 準 となる 排出量 に対する 削 減 率 （ % ）	0.0	4.6	-19.6	-40.2	-32.4
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハ イ ド ロ フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	パ ー フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		6,155	5,869	7,359	8,632	8,151

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	基 準	0.1065	0.1047	0.1234	0.1577	0.1595
	前 年 度 比 （ % ）	—	-1.7	17.9	27.8	1.2
	基 準 となる 原単位 に対する削減率 （ % ）	0.0	1.7	-15.9	-48.1	-49.8
活 動 規 模 の 指 標						
生産量		57,803.00	56,044.00	59,620.00	54,734.00	51,091.00

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	大型ロット化及び連続生産により、生産性が向上しCO2排出量が減少。
令和4年度 (2022年度)	生産量の増加及び化成工場の天然ガス使用効率悪化により、CO2排出量が増加。 また、2022年12月以降朝日工業より菌体工場が移管、エネルギー使用量が増加した。
令和5年度 (2023年度)	肥料製品の品質管理の一環で、固結防止対策として低水分化を実施するようにしたため、主として天然ガスの使用量が増加したことにより、エネルギー使用量、CO2排出量共に増加した。
令和6年度 (2024年度)	前年度に記載している固結防止対策の天然ガスの使用量が減少となり 肥料高騰の影響を受け、肥料販売が前年比△7%減となった為、 原油換算エネルギー使用量、CO ₂ 排出量共に前年度より低減した

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施。	R2	R2	
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	大型ロット化及び連続生産による待機電力削減	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

--